

1大会運営に関すること

感想

- 久しぶりに参集する静教研で、発表者の顔や作品と触れてたいへんよかった
 - オンデマンドも旅費や日程などで参加できない方のためにも良かった
 - 温かな大会、スムーズな運営でよかった おもてなしの心を感じた
 - 基調提案がとてもわかりやすくよかった
 - 分科会では発表者の熱意、参観者の真剣さ、助言者の的確なわかりやすい助言がよかった
 - 講演会も指導要領の趣旨に則った的確、かつ、わかりやすい内容でたいへん参考になった
 - △人数が多かったので分科会会場はやや狭かった
 - △クロムブックを持ち込むなどの工夫も考えられたのではないか
 - △グループで協議する時間などがあればなお良かった
- など概ね満足できる運営であった

2大会を通しての成果と課題

成果

- ・対話と教科横断的な学びについて理解を深めた
 - ・鑑賞と表現のかかわりを学んだ
 - ・造形遊びについて深く学べた
 - ・図工美術のつけたい力を年間を通して〈9年間を見通して〉育成していく
 - ・社会とつながる教科にしたい、生活をより豊かにするために
 - ・まずは子供の思いを大切に、子供中心の授業を展開したい
 - ・地域の材やモノヒコトとのかかわりで対話の生まれる授業を考えたい
 - ・授業が時代と共に変わってきたこと、逆に変わらないことがあることを感じた
 - ・本物、実物を見せる場面とICTで見るなどの使い分けが大切
 - ・図工、美術の魅力や大切さについて感じる研修となった
- などの感想が寄せられ、充実した研修となった

課題

- ・オンデマンドは、業者の協力なくしては無理〈負担が大きすぎる〉。今回は静教研としての予算があったために実現したが、通常の地区大会では難しい。
- ・参集型の良さを改めて感じる機会となったが、日程的にも難しさある(発表者、分科会の本数をこれ以上増やすことは難しい)日程的にも半日にするには無理があるし、協議の時間等の確保が難しい。
- ・理由はわからないが、開催以外の地区の参加が非常に少ない(美術は志太以外の参集は約50名、オンデマンドは約50名)静教研夏季大会そのものの在り方を見直す、検討する時期が来ているのではないだろうか。